

カリタスジャパンは、8月20日から22日に行われた本会議のブース展示にて、2025年のアフリカにおける支援と国際カリタスキャンペーン「債務を希望に変えよう(Turn Debt into Hope)」を紹介しました。カリタスジャパンのブースには、会議や講演の合間にその出席者や支援団体やビジネスの関係者、アフリカ文化に関心のある人々など国内外を問わず100人以上が訪れ、その半数はどの方々からキャンペーンへのメッセージをいただきました。

債務超過に陥った約50か国のうちアフリカの国は30か国以上を占めています。終わらない紛争や気候変動の影響を跳ね返すために行った資金調達にかかる利子が更なる負債を生み、国はその負債返済に追われて多くの人々の最低限の生活も賄えない状況が拡大しています。キャンペーンは、聖年を記念して、その債務をなくして希望に変えようとするものです。拍車のかかる気候変動が原因となって資源をめぐる競争を激化させ、人々を故郷から追い出すことで紛争を激化させています。債務正義だけでなく気候正義がなくしては平和はありません。こうした「負いきれない重荷」について考え、キャンペーンを身近な人々と共有していただき、引き続きカリタスの活動にご協力いただけますようお願い申し上げます。(キャンペーン終了予定:2026年1月6日)

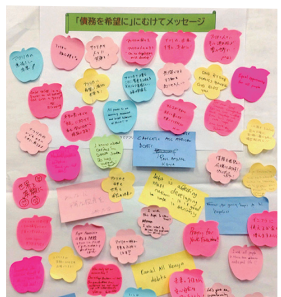
キャンペーンは
こちらから

*国連などの国際機関と日本が共同開催する、アフリカ自身のオーナーシップを尊重し、国際社会がパートナーとしてアフリカの開発を後押しする「パートナーシップ」の重視を掲げた国際会議です。

いただいたメッセージ(一部原文を私訳し掲載しています)
アフリカの国々をアフリカの人々の手で
債務の軽減は、私たちだけの救いではありません。それは人類全体への祝福であり、未来への希望です。
一人ひとりの力が集まって、大きな力になる
本当の意味の「自立」に向けて、私も、学びながら頑張ります!
人生は何度もチャンスを与える。たったひとつのきっかけで、すべてが変わることもある。信頼、希望、平和。
私たちの心に希望の灯をともしてくれてありがとう
誰もが笑顔に値する。あなたがその笑顔を届ける人になる。その小さな笑顔が希望を呼び起こすかもしれない!笑顔を届けよう!
主が憐れみを示してくださるように、私たちも互いに愛し合ひましょう。そしてともに歩むことで、債務を希望へと変えていくことができます。



ブースにて活動紹介動画を見る訪問者といいただいたメッセージ@カリタスジャパン



援助実績一覧(2025年4月～8月)

	援助国/地域	援助活動名	援助団体	援助額(円)
国際カリタス 緊急支援要請	マダガスカル	サイクロンに起因する洪水被害に対する緊急対応プロジェクト	カリタスマダガスカル	1,164,450
	ブルキナファソ	脆弱なIDPsとホストコミュニティに対する緊急食糧・栄養・早期復興プロジェクト	カリタスブルキナファソ	1,722,800
	コンゴ民主共和国	北キブ州及び南キブ州の国内避難民及び帰還民への緊急支援	カリタスコンゴ	1,419,400
	ブルンジ	コンゴ難民に対する緊急人道支援プロジェクト	カリタスブルンジ	1,685,200
	イエメン	イエメン緊急支援2025	カリタスポーランド	1,419,400
	カザフスタン	カリタスカザフスタン緊急支援(カリタスアジア)	カリタスカザフスタン	2,554,920
	ベネズエラ	ベネズエラの長期的危機の影響を受けている人々への支援	カリタスベネズエラ	861,400
	ミャンマー	ミャンマー地震対応	カリタスミャンマー	3,264,400
	ミャンマー地震	ミャンマー地震対応(2回目)	カリタスミャンマー	13,880,000
	東京教区	ミャンマー地震緊急援助事業	カリタス東京	2,000,000
能登地震	名古屋教区	2025年度「令和6年能登半島地震」被災地支援活動	カリタスのとサポートセンター	9,578,922
	名古屋教区	2025年度「令和6年能登半島地震」被災地支援 カリタスのとサポートセンター組織強化	名古屋教区	7,004,107
	名古屋教区	石川県輪島市町野町震災復旧・被災地支援事業2025年	震災復興子ども支援	1,000,000
海外援助 (一般)	名古屋教区	能登半島地震、奥能登豪雨からの復旧・復興支援活動	輪島復興支援団体リガレ	1,544,760
	コンゴ民主共和国	ヘイワ学園養育センター修復プロジェクト	ONG ESD HEIWA	4,337,100
	モンゴル	テイクアセンダープロジェクト	カリタスモンゴル	3,140,002
	ネパール	安全な移住労働と持続的な地域再統合促進進事業(延長)	カリタスネパール	4,628,175
	ラオス	カリタスラオス設立支援(3年目)	カリタスラオス	4,381,500
	カンボジア	弱者女性のための職業技能開発センター(3年目)	カリタスカンボジア	4,783,218
	インド	オリッサ州コミュニティの災害強靱化プロジェクト(1年目)	カリタスインド	4,502,700
	国際カリタス	国際カリタス分担金2025	国際カリタス	4,749,918
	カリタスアジア	カリタスアジア分担金2025	カリタスアジア	964,916
	仙台教区	東日本大震災 福島県南相馬市周辺における被災・避難者・困窮者支援	カリタス南相馬	4,915,818
国内援助 (一般)	仙台教区	ビニールハウス再建事業	しんせい	1,940,000
	東京教区	公立小中学校における多世代・異文化の居場所 アート小学校/中学校	地球対話ラボ	991,910
	東京教区	ひとりざサポート～若年女性が性的搾取にあわない権利～	ばっぐず	725,000
	東京教区	難民・仮放免状態にある人の住まいと暮らしを支える住宅支援と食糧支援	つくろい東京ファンド	2,000,000
	東京教区	「外国・民族的マイノリティ人権基本法」作成によるアドボカシー	外国人人権法連絡会	1,750,000
	東京教区	社会的に孤立し生活に困窮した人々への食支援を通したつながりづくりと福祉・医療支援事業	山友会	500,000

タンザニア ムワンザ大司教区
ヴィタンドゴプロジェクト
(小さな手をとって)

クリスマス募金による支援の1つに、タンザニアのムワンザ大司教区カリタスでの小学校低学年の子どもたちに文字や数字の読み書きと計算能力を高めるプロジェクトがあります。この地域の多くは遊牧民の家庭で、子どもたちには小学校入学前から牛や山羊の世話が生活の一部であり、遠くの小学校に行く必要性を感じていない親もいます。そのような中、プロジェクトに参加した親子の声が寄せられました。

わたしはニーマ、12歳です。両親はわたしを小学校に通わせるのはお金の無駄だと言っていたので、わたしはいつも台所や食事の手伝いをしていました。でも近所の子たちが制服を着て小学校に行く姿を見ると、いつも自分は別なんだ、と感じていました。でもプロジェクトスタッフが両親に「教育は裕福な人たちのためのものではない。」と言って、プロジェクトの放課後クラスに誘ってくれました。初めて英語で自己紹介ができた時、自分の体の中から力が湧いてきたことを実感しました。今では小学校にも通い、小学3年生です。本を読むのが好きで、夜は両親に本を読み聞かせています。両親は今では笑顔で「ニーマ、お前を誇りに思うよ。」と言ってくれます。わたしの将来の夢はジャーナリストになることです。わたしが育った村の話を伝えたいです。



ニーマさん

「この土地で長く暮らし、子どもたちの多くは家事と勉強の両立が困難であることを見てきました。エディナも勉強が大好きなのに小学校はかなり遠くにあり、通学させるのはあきらめていました。だからこのプロジェクトが始まると聞いたとき、『エディナの将来を変えるチャンスだ』と確信しました。親の欲目でなく、数字が苦手だったエディナが問題を解いて他の子に助け舟を出すまでに成長したと思っています。このプロジェクトは勉強だけでなく、子どもたちに規律とチームワークを養い、自信を育むことに重点を置いていると思いますし、わたしも娘のそばに立って励まし続けようと思います。」(父親のエマニュエルさん)

エディナさん

エマニュエルさん

男の子は牛の世話をする、という文化の中で育ちましたし、息子のタウディにも「この牛たちがお前の教室だよ」と教えていました。でも、心の奥底では彼がなにかを失っていると感じていました。だから、プロジェクトスタッフが我が家を訪問して、「男の子は牛の面倒を見ながら勉強することができる。」と言ってくれて本当にうれしかった。タウディは早朝の牛追いの後で放課後クラスに参加し、今では小学校にも通って獣医になる夢を持っています。そんな彼を誇りに思います。

サミュエルさん

親子の写真すべて© Caritas Mwanza

この放課後クラスでは地域の高校を卒業した若者が子どもたちに教えています。こうした若者や現役教師への教授法の研修、子どもたちの親を対象にした、教育の重要性に理解を深めて実践につなげるワークショップを開催して地域全体を巻き込み、さらに地域が中心となって教育の質向上、社会全体の活性化につなげていくことができるよう支援が行われています。

読み書きを習う様子
©カリタスジャパン編集
後記

今年、これまで重要な役割を果たしてきた、カリタス釜石ベースと大船渡ベースが終了しました。一方カリタス南三陸、石巻、南相馬は引き続き、地元で「カリタスさん」の呼び名で親しまれながら活動を継続しています。また能登ではカリタス羽咋ベース、七尾ベースに加え、教会の再建に伴いカリタス輪島ベースがスタートしました。わたしたちカリタスの活動もさらに広がります。



クリスマス募金による支援から



we are

Caritas

今年は、ルイス・デ・アルメイダの生誕500周年です。

彼は西洋式の病院を豊後府内(現在の大分市)で開設し、当時の最先端の医術をしました。

彼は、貿易商として富を築きましたが、何よりも国王から与えられた医師の免許を取得して、1552年来日しました。

当時、府内の街頭には孤児があふれ、また、いわゆる「嬰兒殺し」が行われている光景を目の当たりにします。

彼は、領主大友宗麟の庇護のもと、育児院をはじめ病院、ハンセン病のケア施設を私財を投じて造りました。

アルメイダがもたらしたものは、西洋の高度な医療技術でしたが、それ以上に大切な点は、

「貧しい人々、病者にしたことはキリストにしたこと」という信仰に基づく生き方を伝えたことです。

当時、ハンセン病者は、病による身体的苦しみだけではなく、偏見、差別を受け、人間としての尊厳を奪われました。

そのような彼らを保護する施設が建てられ、患者を献身的にケアする人々の姿は、

大きな驚きの眼をもって見られたはずです。

「今日、舩ビデの町に救い主がお生まれになった」

イエス誕生時も、キリシタンの時代も同じように誰からも顧みられず、生きる希望を失った人々がいました。

それは現代も同様です。イエスとは「神は救う」という意味ですが、救いの業は、幼子イエスに始まり、

多くの宣教師を通じて、今を生きる私たちに伝わっています。

私たちはそれを実行するために、信仰の恵みをいただきました。

ともに愛と慈悲の業を実行していきましょう。

森山信三(カリタスジャパン担当司教)



We are Caritas 31号は、クリスマス特集号です。内面には、本年度のカリタスジャパンの支援に関連する写真を12月1日から24日までのアドベントカレンダー形式で縦型に配置しています。写真の下には、支援先の皆さんの声、回勅、教皇メッセージなどの言葉*や、カリタス活動を実践する人々の姿や話を掲載しています。

すべての兄弟姉妹が、ともに、よき主のご降誕祭と新年を迎えることができますように・・・

*抜粋とし、中略、「」等の省略、項目内の順序入替などを行っている箇所があります。

We are Caritas No.31(2025年冬号)
通算発行番号No.337

郵便振替番号 00170-5-95979

宗教法人カトリック中央協議会 カリタスジャパン

発行人 成井大介

〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館

TEL:03-5632-4439 FAX:03-5632-4464

Email:info@caritas.jp URL:https://www.caritas.jp



https://www.facebook.com/caritasjapan

